

2016(仏暦2559)年夏(7月)号(第99号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

いかなる昨日より 今日が尊い

■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

■本願寺の本

にわせっぽう
「庭説法—歌えばお経 話せば法話」

■お知らせ、編集後記

Photo

標高1800m、東御市の湯ノ丸高原レンゲツツジを見に行ってきました。6月は、昼間でも、気温17～8度ほどで、半袖では寒いくらいでした。娘と一緒に、リフトに乗りたりして初夏の高原を楽しんできました。

住職 法話

いかなる昨日より 今日が尊い

プロ野球メジャーリーグのイチロー選手の、メジャー3000本安打が間近です。また偉業を成し遂げる一瞬です。

した。これは、記録においても、川の流れるように絶えずここで終わることなく、この一瞬、この瞬間で移り変わっていくのでしょうか。

ということをもっとにやっています」と言っています。さて、お題の法話は、真宗教団連合発行の法語カレンダー、二〇〇五年の表紙のこと

ことなく、「昔は良かった」と懐かしがるのがよくあります。過去にとらわれたり、未来を夢見たりして、今を生きることをおろそかにするほど愚かな生き方はないということです。昨日があつて今日、今日があつて明日という、一

それになんで、先日、NHK・BS放送で「3000本へ！見せますイチロー全安打」という番組がありました。メジャーリーグ2030本までの全安打を、節目節目の記録やインタビューを含めて放送していました。「イチロー語録」とも言われるように、その番組でも、あらためて気付かされる名言ばかりでした。中でも、記録を重ねるとに気になった言葉が、「この一瞬」とか「この瞬間」で

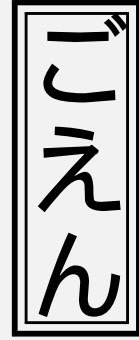
日米通算4000本安打達成の会見では、「結局、4000という数字が特別なものをつくるのではなくて、記録が特別な瞬間を作るのではなくて、自分以外の人たちが特別な瞬間を作ってくれるものだ」というふうによく思いました」と言っています。

現在・未来のあり方を示された「賢善一夜の偈」という一節があります。過去を追わず 未来を願わず 過去はすでに去り 未来はいまだ来らず ただ現在の法を その場その場で観察し 動揺することなく よく知って修習せよ 私たちは、どうしても現実から逃げて、今の自分を顧みる

緒の流れの中にある今日ではなく、昨日と明日を共に担う今日といった見方なのでしょう。イチロー選手の「この一瞬」「この瞬間」という表現からも、今の我が身をよく見て、忘ることなく努めなくてはと教えられるます。



「結ぶ絆から、
広がる「縁へ」



浄土真宗本願寺派は、「御同朋の社会をめざす運動」の総合テーマに、「結ぶ絆から、広がる「縁へ」という言葉を掲げております。「絆」とは、もとは「馬などをつないでおく綱」の意味で、人が結びつなぐりのことです。この人と人との結びつきは、確かに大切でかけがえのないものです。一方で、人間の思いや好意によるつながりは、どこまでも不確かなものでしかありません。このように人間の分別的な知の世界に「つながり」を限定させるなら、私たちの社会が抱える深い闇、大きな

悲歎を人間の根源的なところから克服していく原理としては、不十分でありましょう。一方、「縁」とは、人間が作為的につくり出すつながりを意味する言葉ではありません。それは、すべての物事が互いに関わり合って存在していること、あらゆる存在が無限の過去から関連し合いながら現在にいたっていることを示しています。「縁」とは、生きる力を再生させる原理となり、利己的なあり方から離れ難い自己への内省を喚起し、根源的な無力さを実感させながら、それだからこそ他者とつながり合っていくあり方を開いていきます。

総合テーマに「結ぶ絆から、広がる「縁へ」を掲げるのは、あらゆるものが縁起し合っているという視点に立って、この運動を進めたいという願いが込められているからです。宗門は、「阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他に共に心豊かに生きることのできる社会」をめざしています。この宗門の根本的な理念を実現していくために、「御同朋の社会をめざす運動」を展開していきます。

「縁」は、お釈迦さまが説いた大切な教えである「縁起」に由来する言葉です。

お釈迦さまはさとりを開かれ、その後四十五年間にわたりさまざまな教えを説かれましたが、その教えの根本が「縁起」であるといわれています。お釈迦さまは、人が生まれ、老い、病み、やがて死にいたるといふ苦しみの原因を探っていく、その原因が人間相互の根本的な欲望や愚かさであることを見いだしました。そのうえでその愚かさが生み出す苦悩を、「智」によって解放していく道を示されたのです。【つづく】

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研究所、重点プロジェクト推進室」より

第25代専如門主 伝灯奉告法要

The Commemoration on the Accession of the Jodo Shinshu Tradition to the 25th Monshu Sennyō

<p>法要期日</p> <p>2016(平成28)年</p> <p>第1期 10月1日(土)～ 8日(土)</p> <p>第2期 10月20日(木)～ 27日(木)</p> <p>第3期 11月4日(金)～ 11日(金)</p> <p>第4期 11月18日(金)～ 25日(金)</p>		<p>2017(平成29)年</p> <p>第5期 3月7日(火)～ 14日(火)</p> <p>第6期 3月28日(火)～ 4月4日(火)</p> <p>第7期 4月11日(火)～ 18日(火)</p> <p>第8期 4月25日(火)～ 5月2日(火)</p> <p>第9期 5月9日(火)～ 16日(火)</p> <p>第10期 5月24日(水)～ 31日(水)</p>
--	---	---

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺

TEL 075-371-3181(代) ホームページアドレス <http://www.hongwanji.or.jp>

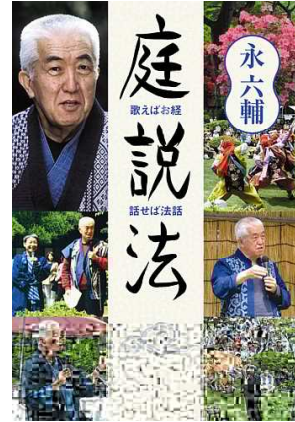
～本願寺の本～

『庭説法—歌えばお経 話せば法話』

永六輔著／本願寺出版社刊 1,296円(税込)

先日の訃報に驚かされました。本願寺出版社からも、辻説法ならぬ「庭説法」と題して本を出されています。永さんは、浄土真宗のお寺の生まれということもあり、親戚の静岡県のお寺で毎年開かれる講演などがおさめられています。

軽妙な語り口で、ユーモア交えて「生」「老」「病」「死」を語る。20年もの長きにわたり、毎年行われている「お寺の会」をこのたび収録。(本願寺出版社HPより)



「万行寺門信徒会」会員の皆様へ

「万行寺門信徒会」より、本年度年会費のお願いを6月上旬にご案内致しました。納めていただき、厚く御礼を申し上げます。浄財として大切にに使わせていただきます。なお、本年度よりご入会の方には、本号から寺報などを年4回配布させていただきます。

まだ未納の方は、納入期限を過ぎましても年度内（来年3月）まで受け付けていますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

編集後記

前ページの「ごえん」は、本願寺で編集発行をした冊子をもとに連載を続けてまいりましたが、次号にわたって最後のまとめになっています。今回は、少し難しい内容も含まれています。が、「縁起」というお釈迦さまが説かれた大切な教えです。また、わかりやすくお話し出来ればと思っております。◆また、暑い日が続くようです。お盆の月を迎えて、お墓参りなど外へ出る機会もありますが、熱中症にならないよう意識して対処することが大切です。ご自愛ください。

